

医療物資 生産急ピッチ

木幡計器、中小の力結集

木幡計器製作所（大阪市大正区、木幡蔵社長、06・6552・0545）は、地域の中小企業と連携し、医療現場向けの製器開発に乗り出している。近く医療用フェースガードの生産を開始するほか、すでに感染症患者搬送用ストレッチャードで飛沫を防ぐ被覆具を

作製。新型コロナウイルスの感染拡大で医療物資不足が深刻化する医療現場に対し、中小企業の力を結集して支援する。

「現場の生の声を聞き、ビジネスというより何か手助けをしたいという気持ちで作りました」という。

（27面に関連記事）

医療用フェースガードはポリプロピレンの袋を針金の枠にかぶせ固定したもので、顔の周囲を覆い、使用後は袋を捨てる。数週間以内に約1000個を生産する予定。まず大阪市内の医療機関へ提供した後、非常時の物資供給を支援する一般社団法人、スマートサプライビジョン（東京都港区）を通じて全国の医療機関に提供する。

木幡計器製作所は産業・医療用計測装置メーカー。以前から大阪市内の医療機関と医工連携などで協力し、臨床工学技士から物資不足の説明を受け、生産を決めた。木幡蔵社長も参加する医工連携プロジェクト「りびんぐらボ大正」の会員企業と連携。今後もそれぞれ得意技術を生かして医療物資供給に取り組む。ストレッチャード用被覆具は、同社を含め7社で作製した。

木幡計器製作所（大阪市大正区、木幡蔵社長、06・6552・0545）は、地域の中小企業と連携し、医療現場向けの製器開発に乗り出している。近く医療用フェースガードの生産を開始するほか、すでに感染症患者搬送用ストレッチャードで飛沫を防ぐ被覆具を